

令和3年6月30日

伊勢市議会議員 浜口 和久 様

新政いせ 世古 明  
宮崎 誠

## 研修会参加報告

### 1. 日時

令和3年6月17日(木) 13:00~15:00

### 2. 研修会場

伊勢市役所本館3階 委員会室

### 3. 研修内容および講師

研修内容：災害対応・体制について

講師：京都府立医科大学大学院医学研究科 客員講師 熊谷 渉 氏

### 4. 所感

国内における大地震及び航空機・列車事故といった災害時に被災地に迅速に駆けつけ、救急治療を行うDMATの活動や、日本医師会災害医療チーム(JMAT)による被災地の生命及び健康を守り、被災地の公衆衛生の回復及び地域医療の再生支援についてご説明をいただき、発災時に医療支援が必要であることを改めて確認する機会となりました。

特に、発災後の時間的経過及び保健医療支援活動が各フェイズによって異なるだけでなく、近年の発災時及び発災後における直接死と関連死の割合が変化してきていることを知り、避難生活が長期化することによってメンタルヘルスへの対応など被災地区の避難所や仮設住宅等における保健衛生対策の重要性を知ることができた。また、東日本大震災時と熊本地震後のJMAT職種と比較において、医師が41%から30%へ減少する中、歯科医師の参加率が0%から1%に増加していること、コメディカル(co-medical)と言われる医師と共同して医療を行う医療専門職種が増加しており、発災時の歯科医療と保健活動に変化がみられることから、震災関連死の特徴や原因となる避難所生活によるストレスなどが起因していると知ることができた。講師である熊谷氏が歯科医であることから、災害関連疾病に誤飲性肺炎を始めとする歯科疾病の増加への対策及び対応には、中長期的な被災者への健康対策が必要であると同い、今後予想される南海トラフ地震への対策として行政と医師会との連携できる体制を整える必要があると感じた。

発災時の歯科所見による身元特定など実例をお伺いすることもできたが、何よりも本市においては市民だけでなく、市内で働く方及び外国人を含めた観光客の避難先となる避難所の運営や、健康保健への対応も含め発災前の防災対策も含めて考える機会となった。



# 報 告 書

令和3年8月19日

伊勢市議会議員長  
浜口 和久 様

新 政 い せ  
上 村 和 生

第17回全国地方議員交流研修会に参加しましたので、下記のとおり報告します。

(記)

○ 日 程 : 令和3年8月10日 (火)

時 間 : 9:00~12:20

開催方法: Zoom オンラインシステムにて

講 和 : パート1 (9:30~12:20)

● コロナ禍の困窮者支援の現場から、今こそ公助の出番

小倉 修平さん

(足立区議会議員・コロナ災害対策自治体議員の会共同代表)

● いのちを守ろう! 病床削減などの医療崩壊を許すな!

山田 厚さん (甲府市議会議員・全国労働安全衛生研究会代表)

● 県経済に与える新型コロナの影響

原田 和広さん (山形県議会議員)

● コロナ禍で浮き彫りになった諸課題

金井 利之さん (東京大学大学院教授)

● コロナ禍で明らかになった日本の社会保障の脆弱さと地方政治の課題

伊藤 周平さん (鹿児島大学教授)

研修所感:

・小倉 修平さんからは、派遣切り等で居住喪失となり、ネットカフェで暮らす日雇い労働者が都内に4千人いる。緊急事態宣言を受けてネットカフェへの休業要請で困窮者支援団体へSOSが殺到した。現状と対応策について報告された。

・山田 厚さんからは、医療現場で今起こっている諸課題について(病床削減による様々な影響等)現状報告がされた。

・原田 和広さんからは、山形県は、コロナ対策として中小企業向け無利子・無保証の融資制度を全国に先駆け実施したが、3年後の返済開始時に大きな影響が心配されるのではと問題定義がされた。

・金井 利之さんからは、オリンピックとコロナ対策を例に挙げ、お祭り騒ぎ（オリンピック開催）により深刻な課題から目を反らす作戦であり、また、祭りを抑制することであたかも深刻な問題を直視させる手法等についての話がありました。

・伊藤 周平さんからは、医療費抑制策と病床削減、医師看護師不足、医療費窓口負担増等の施策がなされてきたが、現状のコロナ禍で浮き彫りになった厳しい現状と課題が報告された。

今回の研修では様々な立場の方から、様々な課題や意見を聞くことができた。コロナ禍で浮き彫りになった課題がこれほど多く、困っている方が沢山おられることにも驚いた。今後、この研修で聞いた諸課題等について研究を重ねなければと感じた。

以上

